

第7回全国少林寺拳法指導者研修会

第7回全国少林寺拳法指導者研修会



模擬授業の様子

第7回全国少林寺拳法指導者研修会（主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁）が9月14日～16日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で、未経験者8名を含む57名の参加者が集まり実施された。

本研修会は、武道授業において「どう声かけするか」「何を声かけするか」「いつ声かけするか」等の少林寺拳法授業力の向上と指導法の習得を目指し、中学、高等学校の教員や授業協力者等を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した少林寺拳法の研修会を実施し、全国的な少林寺拳法指導者の養成と資質向上に資する目的で行われた。

■ 1日目（9月14日）

はじめに伊東茂治^{いとうしげはる}少林寺拳法連盟理事が挨拶に立ち、「新学習指導要領に武道9種目が並列明記され、中学校武道必修化は第2ステージに入ります。他の武道と違う少林寺拳法の特徴を踏まえた指導方法を見出し、このチャンスを生かしていただきたいと思います。本研修会では、これまでの指導方法に加え、更なる指導力の向上を目指し、充実した研修となるよう期待しています。3日間、けがのないよう研修してください」と述べた。

次に、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長

が挨拶に立ち、「本年度はスポーツ庁が外部指導者を活用した複数種目のモデル実践校を全国で実施します。全国9ブロック96校で準備が進められ、少林寺拳法は16校が実施する予定です。

立派な中学生を育てるため、一流の講師陣より少林寺拳法の素晴らしさを学ぶとともに、指導力の向上を図ってください。情報交換も含め、3日間の研修が充実したものになり、実施校がますます増えていくことを期待します」と述べた。

続いて、中島正樹^{なかじまさき}講師が講師を代表して挨拶に立ち、本研修会の趣旨を再度確認した。

開講式終了後、『中学校武道必修化指導書DVD』を視聴、その後、大道場に移動し、合田雅彦^{ごうだまさひこ}講師による基本諸法の実技指導が行われた。

休憩後、近藤智靖^{こんどうともやす}特別講師による講義『運動好きの子どもを作る授業の理論と工夫』が行われた。柔道、剣道の武道授業でのゲーム形式を取り



近藤特別講師による講演

大切なこと

- ・質が大切
- ・名前をちゃんと呼んでから伝える
- ・阿かを伝えた後に見ている（遠くからでも良い）
- ・身振り手振りや感覚言語（オフトム、たとえ）も厳格にする
- ・肯定と修正のコンビネーション
- ・立ち位置・声の大きさも重要になる

入れた指導方法を紹介した他、指導者の言葉がけについても説明を行った。「いいね」「うまいね」などの肯定的フィードバックの大切さや、生徒の名前をしっかりと呼んでから伝えること。能力や経験に応じて話す内容を考える必要があると述べた。

その後、^{たにきと}谷 聡 士 助講師が『暴力、体罰、ハラスメントの撲滅、安全管理について』の講義を行った。「昔はこの程度は常識だった」「時には体罰は仕方ない」は通用しない。自分の常識と他人の常識は必ずしも一致せず、常に常識の更新を行うことが重要であると述べた。

夕食後、^{おいひさし}小井 寿 史 講師より『中学校の授業で使えるスーパーテクニク』をテーマとした講義が行われた。話し手が聴き手に与える三要素は、①言語情報7%、②聴覚情報38%、③視覚情報55%である（メディアンの法則）ことから、指導者の表情や態度が子どもの学習効果に大きな影響を与えると述べた。また、脳を鍛える運動として、複数の動きを同時に行うデュアルタスクを用いた、“計算振り子突”、“体構えでジャンケン”など、少林寺拳法の動作を踏まえたゲームを紹介しながら実践し、笑いの絶えない講義で1日目を終えた。

■2日目（9月15日）

はじめに、^{こうきかまさ}高坂 正 治 講師が授業で活用できる調息、坐禅について紹介。「姿勢を整えることで正しい呼吸ができ、心を落ち着かせることができるため、授業のはじめに行くと、気持ちや場の切り替えになる」と説明した。



高坂講師による調息、座禅

次に、中島講師と^{あきもとこうすけ}秋元 宏 介 助講師による『少林寺拳法の授業における技の導入・ゲーム・体つ

くり運動』を、実際に身体を動かしながら行った。

続いて、^{やすだとしゆき}安田 智 幸 講師が学習指導案について講義を行い、「少林寺拳法を教えるのではなく、少林寺拳法で何を教えるのが大事だ」とした。また、多度津中学校での授業動画を視聴し、子どもたちの動きや反応を見ながら、安全面や指導方法など、ポイントを確認した。

その後、経験者班と初心者班に分かれ、レベルに応じた実技指導が行われた。初心者班では、高坂講師が一つひとつの基本動作について丁寧に指導した。また、『拳禅一如』について「拳は身体、禅は心であり、この2つをバランスよく成長させることが大切である」と説明し、少林寺拳法の技や教えを日常生活に生かす指導方法が提示された。

昼食後、中島講師が『授業デザインと授業案づくり』について講義を行い、それに基づいて3~4名の班を作り、班ごとに指導案を作成した。休憩後、作成した指導案に基づき、グループ内で模擬授業を発表し合い、翌日発表する班決めを行った。



学習指導案作成の様子

■3日目（9月16日）

はじめに参加者を代表して、^{うねまたつや}上間 達 也 糸満市立高嶺中学校教諭が参加者を生徒に見立て調息、座禅の授業を行った。

続いて、2日目に作成した指導案を元に、号令法、リズム法、かかり稽古、初心者の4つのグループを代表して1班ずつ、参加者全員を対象に模擬授業を行った。

閉講式では修了証の授与の後、合田講師が講師講評を述べ、中島昭博日本武道館振興課長が主催者挨拶を行い、閉会となった。